「学校休業」　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長　舩橋俊彦

　学校が休業になりました。１８７２年に「学制」が定められ，１８８６年「小学校令」で尋常小学校が４年間の義務教育になって以来，初めてのことです。あの太平洋戦争のなかでも，学校は休業になりませんでした。

　「このピンチをチャンスに」と覚悟を決め，校長としての責務を果たそうと３月から取り組んできました。非常事態宣言が解除され，６月１日より分散授業，１５日からは一斉授業がスタートします。

　少し気の緩みが心配されますが，登校する生徒の姿に元気づけられ教職員一同感謝しています。１年生にはマスク姿しか見せていません。また，校長として話もしていません。早く1年生全体に素顔を見せお話したいと思っています。２年生は落ち着いた授業が展開されています。３年生は進路・修学旅行など学校行事・部活動など「どうなるのか？」という不安いっぱいのスタートでしたがさすが最高学年，昨年より落ち着き，静謐な教育環境のなか，学習に取り組んでいます。

　コロナ感染症のなか，保護者・地域からマスク・ハンドジェル・次亜塩素酸水の寄贈を受けました。

本当にありがたいことです。

　６月３日には寄贈されたフェィスシールド１０００枚一つひとつに生徒全員が堺市総合医療センターの医療関係者への応援メッセージを添える取り組みを行いました。副院長兼看護局長をはじめ，医療従事者の方々から感謝の言葉をいただきました。これこそ「ピンチをチャンスに」の取り組みの一例です。

　３年生は「公式戦もなく引退」と心配していましたが，大阪・堺中体連から３年生が公式戦に出場できる機会をつくるという配慮が発表されました。練習時間がなかなか確保できませんが，「前を向いて」と保護者・地域の方々・教職員が部活動生徒を応援します。

　今年度３学期に配布予定であった生徒一人ひとりのタブレット。当初の計画より早まるかもしれません。ICTパイロット校の経験を活かし，堺市教育委員会の指導のもと，津久野中学校で新たな授業スタイルを作ってまいります。

　今，学校には，文部科学省が示すGIGAスクール構想，「学びの革新プラン」で示されている，Society 5.0で必要とされる生徒を育てていくことなどが求められています。小学校との連携をさらに深め，希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人ひとりがで活躍できる社会を作っていくことが必要です。

　そのため，教育環境の整備をはじめ，校長として学校経営にリーダーシップを発揮し，教職員とともに「チーム力」を生かし学校の活性化をはかっていきます。

　最後に「子ども一人ひとりが大事にされる学校」「子どもが主人公の学校」「すべての子どもに居場所と出番のある学校」をめざします。

　６年目と慢心することなくに保護者，地域からの「応援」をいただき，精一杯頑張る所存です。